

まずは小さな「一芸」を 磨いてみる

一芸で得た「自分はできる」という自信が、別の道でも自分を磨く時の余裕となる。

▼『番狂わせの起こし方』

「一芸は道に通ずる」という諺ことわざがあります。1つの芸道について奥義を究めた人は、他の分野にも通じる道理を身にかけているという意味です。

野球選手には、ミート力・長打力・走力・守備力・送球力などが求められますが、そのすべてを兼ね備えた選手はそういるものではありません。

野村克也は、最初は「一芸」だけでも、努力を重ねることで他の芸も身につけ、一流のプロとなっていく選手を何人も見てきました。例えば、ヤクルトの監督時代に入団してきた宮本慎也は、シヨートとしての守りは抜群でしたが、打つこと

に関しては編成部門が「バッティングに目をつぶってくれるなら、良い選手がい」と言うくらいレベルでした。野村は「守備の要」として宮本を積極的に使っていきますが、やがて宮本はバッティングでも力をつけ、2000本安打を記録するほどの選手へと成長したのです。

一芸に秀でるほどの人は、他の芸を身につけるだけの努力もできるし、才能も持っているものです。「自分には何もない」と言う人は、まずは小さなことでも一芸を磨いてみてはいかがでしょうか。ささやかな一芸も、必ずや他の芸への自信となるのです。